

第5学年2組 音楽科学習指導案

- 1 題材名 いろいろな音のひびきを味わおう
教材名 表現 「小さな約束」(佐井孝彰 作曲)
「いつでもあの海は」(佐田和夫 作詞 長谷部匡俊 作曲)
「リボンのおどり」(芙龍明子 日本語詞 メキシコ民謡 原由多加 編曲)
鑑賞 「アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章」(モーツァルト 作曲)

2 題材について

《新学習指導要領とのかかわり》

- A 表現 (1) ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。
ウ (イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能
(ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能
(2) ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
イ (ア) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。
(イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解すること。
ウ (ア) 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能
(イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能
(ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
- B 鑑賞 (1) ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。
イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。
- [共通事項] ア 音色 リズム 旋律 強弱 音の重なり 音階 調 拍 フレーズ
イ 反復 呼びかけとこたえ 変化 音楽の縦と横の関係

(1) 題材観

本題材は、いろいろな楽器の音が重なり合う響きを味わって聴いたり、演奏したりすること、旋律の重なり方を感じ取り、それぞれのよさが生きるように演奏の仕方を工夫していくことをねらいとしている。

児童はこれまでに、鑑賞曲「ファランドール」を聴いて、二つの旋律の重なり合いや掛け合いの面白さを感じ取りながら聴いたり、歌唱曲「もみじ」では、旋律が重なり合う響きを聴き合いながら二部合唱をしたりしてきた。また、3年生では金管楽器、4年生では木管楽器について学習し、それぞれの楽器の音色のよさを味わって聴いたり、「茶色の小びん」の合奏では互

いの楽器の音や旋律を聴いて音を合わせて演奏したりしてきた。5年生になり、歌唱曲「Believe」や「すてきな一歩」では、合唱を楽しんだり、自分たちの歌声を録音して振り返り、よりよいものを目指そうとしたりする姿勢が見られるようになってきた。しかし、なぜその旋律にその強弱が使われているのかと意味付けをしたり、歌詞の内容を理解して表現を工夫したりすることにまで目を向けている児童は少ない。また、旋律の音の上がり下がりやフレーズ、曲の構成を意識して演奏している児童も少数である。ただ楽譜上に書かれている強弱や歌い方を表現しようとするだけで、一人一人の思いをもち、その思いを演奏に生かそうとすることが苦手である。

そこで、主体的に表現することができるように、一人一人に思いをもたせたい。そのためには、写真や映像を見せたり、歌詞の内容を読み込んだりして曲のイメージを膨らませ、歌詞や旋律の音の動きから、自分の気に入ったところを見つけさせたい。全体を通して演奏を聴いたり、演奏したりするだけでなく、拡大譜を使って音楽の構造や仕組みを理解し、リズムや音の重なり、フレーズなど、注目すべき点を見だし、それぞれの旋律やリズムのよさを感じさせたい。そして、一つの旋律だけでなく、音の重なり的美しさや重なり方の違いによる面白さを味わい、かけ合いの重なり方や同じリズムでの重なり方など、それぞれの特徴が出るような表現の工夫につなげていけるようにしたい。また、自分たちの演奏を肯定的に捉えつつ、思いが表現できているのか、毎時振り返り、次の学習につなげていけるように積み重ねを意識して取り組ませたい。

中学校では、表現を工夫する際に、全体の響きや言葉の特性、曲の背景を捉えながら演奏することをねらっている。そこで小学校段階として、歌唱では、歌詞の内容や旋律の動き、作詞者、作曲者の思いを大切に表現が深まるように指導し、中学校へつなげたい。

(2) 児童の実態 (男子15名、女子16名、計31名)

①音楽の学習の中で、好きな活動に○、苦手な活動に△をつけましょう。

歌うこと	
好き (24名)	<ul style="list-style-type: none"> ・歌うことが好きだから ・歌うと元気になるから ・すっきりするから ・明るい歌を歌うと明るくなるから ・うまく歌えると気持ちがいいから ・楽しいから ・工夫して歌うことが好きだから ・はずむような歌や優しい歌、さみしい歌などいろいろな歌があるから ・合唱ができるから ・みんなと協力できるから
苦手 (7名)	<ul style="list-style-type: none"> ・声を出すことが苦手だから ・声を大きく出せないから ・音痴だから ・下手だから
リコーダーを演奏すること	
好き (16名)	<ul style="list-style-type: none"> ・音色がきれいだから ・楽器を演奏することが好きだから ・うまく演奏できると気持ちがいいから ・ピアノよりも覚えることが少ないから ・ウキウキするから ・楽しいから
苦手 (15名)	<ul style="list-style-type: none"> ・指を動かすのが難しいから ・強い息が出て、雑音になってしまうから ・速く吹くのが難しいから ・変な音が出ると嫌だから ・うまく吹けないから
合奏すること	
好き (27名)	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと息を合わせて演奏できるから ・心を一つにできるから ・音を合わせると少し違って聴こえておもしろいから ・楽しいから ・いろいろな音の集まりを聴きながら音を奏でることが面白いから ・自分の音を聴いて惑わされないようにすることがおもしろいから

	・いろいろな楽器を演奏することができるから ・みんながまとまるから
苦手（4名）	・苦手だから ・難しいから ・音が二つあることが好きではないから
音楽をつくること	
好き（15名）	・達成感があるから ・自分でつくることが好きだから ・楽しいから ・想像してつくることが好きだから ・作曲家の気持ちになれるから ・いろいろな音楽をつくって聴くことが楽しいから
苦手（16名）	・下手だから ・難しいから ・思い浮かばないから ・つくることができないから ・まだ覚えていない音符があるから
音楽を聴くこと	
好き（25名）	・リラックスできるから ・落ち着くから ・音がきれいだから ・音楽を知ることができるから ・聴くことが好きだから ・楽しいから ・作曲者がどんなことを思い浮かべているのか考えることが好きだから
苦手（6名）	・鑑賞が苦手だから
リズム打ちをすること	
好き（22名）	・楽しいから ・リズムがわかるから ・得意だから ・リズムが好きだから ・いろいろなリズムがあつておもしろいから ・みんなと頑張れるから
苦手（9名）	・リズムをとることが苦手だから ・リズムをつくるのが苦手だから ・難しいから ・よくわからないから
友達と声を合わせて歌うこと（合唱）	
好き（24名）	・気持ちがいいから ・一人で歌うよりきれいだから ・協力することが好きだから ・重なるとおもしろいから ・追いかけっこが好きだから ・友達の声聴きながら歌えるから
苦手（7名）	・友達と声を合わせることが苦手だから ・声を出すことが苦手だから ・輪唱で自分のパートが歌えず、つられてしまうから
表現の工夫をすること	
好き（14名）	・音楽を聴くことが好きで、表現することが得意だから ・楽しいから ・表現することが好きだから ・いろいろな場面があるから ・歌の世界がわかるから ・みんなに伝えたいから ・得意だから
苦手（17名）	・工夫が難しいから ・よくわからないから ・苦手だから ・想像が苦手だから ・ありがちな表現になってしまうから

② 記号の名前と意味を答えましょう。

問	① p	② m p	③ m f	④ f	⑤ <	⑥ >
名前	正解 27名 正答率 87%	正解 28名 正答率 90%	正解 29名 正答率 93%	正解 29名 正答率 93%	正解 23名 正答率 74%	正解 17名 正答率 54%
意味	正解 26名 正答率 83%	正解 25名 正答率 80%	正解 25名 正答率 80%	正解 26名 正答率 83%	正解 24名 正答率 77%	正解 24名 正答率 77%

③ 言葉の意味を書きましょう。

ブレス	正解 25名 正答率 80% 無記入 6名	フレーズ	正解 6名 正解率 19% (誤答) 言葉、くりかえし、つなげる
-----	--------------------------	------	-------------------------------------

④歌を歌うときに気を付けていることは何ですか。(記述式)

- ・強弱記号に気を付けて歌うこと
- ・音程に気を付けること
- ・口を大きく開けること
- ・お腹から声をしっかり出すこと
- ・姿勢をよくして下を向かないようにすること
- ・きちんとお腹を動かすこと
- ・声を響かせること
- ・怒鳴らないようにきれいに歌うこと
- ・友達のをよく聴くこと
- ・明るい表情で歌うこと
- ・スラーやリズムに気を付けて歌うこと
- ・地声にならないようにきれいに歌うこと

⑤「もみじ」を歌ったときにどんな歌い方をしましたか。どんな特徴がありましたか。(記述式)

- (二部合唱について)
- ・少し経つと低いパートと高いパートに分かれる
 - ・二つのパートに分かれた
 - ・輪唱がある
- (その他)
- ・フレーズを気にして歌った
 - ・言葉を続けて歌うやり方
 - ・なめらかに、スラーに気を付けて歌った
 - ・高い音程のときに、きれいに聞こえるようにした
 - ・音程に気を付けて歌った
 - ・優しく歌った
 - ・リズムよく歌った
 - ・おだやかな曲、のどかな曲
 - ・高くなったり、低くなったりした
 - ・口を大きく開けて歌った
 - ・少し弱くさわやかに歌った
 - ・強弱記号に気を付けて、きれいに歌った
 - ・ブレスに気を付けて歌った
 - ・場面を想像しながら歌った

⑥合唱で歌う際に、他のパートにつられないで歌えていますか。(「すてきな一歩」で実施)

	人数	音程が取れていて 合唱できる	音程が不安定 (途中でつられてしまう)	他のパートを 歌ってしまう	音程が 取れていない
主旋律	12名	7名 (58%)	3名 (25%)	0名	2名 (17%)
副旋律	19名	7名 (36%)	10名 (53%)	2名 (11%)	0名
合計	31名	14名 (45%)	13名 (42%)	2名 (6.5%)	2名 (6.5%)

<考察>

本学級の児童は、明るく素直で、活気がある。歌唱曲「Believe」や「すてきな一歩」では、二つのパートで向かい合って歌い、自分たちの歌声を録音したものを聴いて、よりよくするためにはどのようなところに気を付けて歌ったらよいのか、クラスで考えていく活動に意欲的に取り組む姿が見られた。

実態調査では、歌うことが好きな児童が多く、また合唱や合奏など、みんなで取り組む活動を好む児童が多いことがわかった。また質問2から、強弱記号の意味を理解している児童が過半数いることがわかった。5年生になってから、教科書に出てくる度に確認していたため、少しずつ浸透してきていることがうかがえる。しかし、表現の工夫をすることに関しては、苦手意識をもっている児童が多くいることがわかった。つまり、児童は、強弱記号の意味はわかっている、表現の工夫をどのようにしたらよいかわからず、難しいと感じているということがわかった。

そこで、少人数グループ活動を取り入れ、より主体的に表現の工夫に取り組めるようにさせたい。曲の中で歌詞や音の動き、音の重なりから、自分の好きな部分を見つけさせ、同じような思いをもつ児童でグループを組ませる。似たような思いをもつ児童と互いに思いを伝え合うことで、どのような歌い方ができるのか考え、強弱や声の合わせ方など表現の工夫をさせていきたい。また、同じ強弱記号でも旋律やリズムによって感じ方が変わることに触れ、声の出し方についても考えさせたい。そして、一人一人の思いを基に、さらにクラス全体の表現の工夫へとつなげていきたい。

また、歌うときには、歌う姿勢や声の出し方、音程など、基本的な歌い方については意識して

いることがわかった。しかし、二部合唱になると、5割の児童が1対1では他のパートにつられてしまうことがわかり、表現の工夫をする前にしっかりとリズムや音程を取り、歌い込んでおくことが必要である。さらに、「もみじ」で学習した二部合唱の声部の重なり方に関する項目では、答えられた児童はほとんどいなかった。児童は、二部合唱に取り組むことができたが、前半の輪唱風な音の重なり、後半の3度を中心とした重なり方の違いまでは、あまり意識していなかったことがわかった。そのため、「いつでもあの海は」において、一曲の二部合唱の中でも、二つのパートの重なり方の違いから、曲の印象が変わることに気付かせ、その違いが生きるように表現の工夫をさせていきたい。

また、ブレスの用語は理解しているようであったが、フレーズの用語に関しては、理解できていない児童が多かったため、これから意識的に音楽用語を使っていきたい。そして、リコーダーを演奏することや音楽づくりに関しては、技能面において苦手意識を持っている児童が少なくないことがわかったので、今後の課題としてスモールステップを大切にしたい指導や達成感を味わえるような授業の工夫をしていきたい。

(3) 指導観

本題材では、第一次で器楽教材「小さな約束」を学習する。ハ長調との違いを感じ取りながらイ短調に触れ、リコーダーの柔らかく優しい音色が出せるように指導し、寂しくも美しい響きのよさを味わわせたい。前半は二つのパートが同じ旋律を演奏するため、全体が一つに重なる響きの美しさを感じ取らせたい。後半では二つのパートがそれぞれ違った動きをするので、互いの音を聴き合い、音を合わせることを大切にするように指導していきたい。

第二次では、歌唱教材「いつでもあの海は」を学習する。この曲は前半が斉唱で、後半が二部合唱になっている。前半は全員で同じ旋律を歌うため、声の響きが一つにまとまるよさを味わわせたい。さらに後半の二部合唱は、二つのパートの重なり方が異なるため、その違いに気付かせ、それぞれのよさが生きるように表現を工夫させたい。後半の一つ目は、主旋律を追いかけるように副次的な旋律が入ってくる。ここでは、波が激しく動く様子や優しくおだやかな波の様子を写真や映像を頼りにイメージを膨らませておく。そして、歌詞や旋律、リズムに注目させ、副次的な旋律の入り方や主旋律とのかけ合いをどのように歌うのか、拡大譜やホワイトボードを使って、全体やグループで考えさせたい。二つ目は、主旋律と副次的な旋律が同じリズムで重なっているので、互いの声を聴き合いながら音の重なりを意識して歌わせたい。また、三度の響きと六度の響きのよさを感じ取り、広がり意識して歌い方を工夫させていきたい。このように、この曲では旋律の重なり方の違いに気付かせ、それぞれのよさが生きるように、主体的に歌い方を工夫させ、表現につなげさせていきたい。

第三次では、鑑賞曲「アイネ クライネ ナハトムジーク 第一楽章」を学習する。三年生で金管楽器、四年生で木管楽器を学習したことを振り返り、五年生ではさらに弦楽器の響きのよさを味わわせたい。また、「いつでもあの海は」での学習を振り返り、旋律の重なり方の変化に気付かせたい。その際に、スカーフを持って音楽に合わせて動かしながら聴かせることで、全員で同じ旋律を演奏すること、主な旋律と伴奏を重ねて演奏すること、互いに呼びかけ合うように演奏することの三つの変化を感じ取らせ、弦楽合奏での重なり方の違いによる面白さを味わわせたい。

第四次では、器楽教材「リボンのおどり」を学習する。五つの旋律パートと二つの打楽器パートで構成されており、同じ旋律を何度も繰り返すため、パートの重ね方や速度、強弱の工夫をさせやすい。リコーダーや鍵盤楽器、木琴、鉄琴など、それぞれの音色のよさを感じ取りながら、どの楽器の音色を重ねていくのか、組合せや速さ、強弱はどのようにするのかワークシートに書き込み、グループで試しながら工夫させたい。そして、グループごとのよさを味わうために聴き

合い活動を取り入れながら、全体でそれぞれの演奏のよさを共有していきたい。旋律が重なり合う響きのよさを味わわせて演奏することで、題材のまとめとしていきたい。

3 題材の目標

- 歌声や楽器の音色が重なり合う響きのよさを感じ取りながら、演奏したり、聴いたりする。
- 旋律の重なり方や歌詞、音色の違いを感じ取り、どのように表現するかについて思いや意図をもって演奏したり歌ったりする。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度（関）	音楽表現の創意工夫（創）	音楽表現の技能（技）	鑑賞の能力（鑑）
①イ短調の楽譜を見て演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。【関①】 ②旋律の重なり合う響きのよさを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。【関②】 ③弦楽器の音色や旋律の重なり方に興味・関心をもち、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。【関③】	①互いの声や旋律の重なりを聴き取り、旋律の重なり方や歌詞の違いを生かした表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。【創①】 ②互いの楽器の音や音の重なりを聴き取り、全体の響きが変化していく面白さを感じ取りながらパートの重ね方を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。【創②】	①イ短調の響きを感じ取り、互いの音を聴き合いながら、自分の音を調和させて演奏している。【技①】 ②旋律の重なり方の違いに気付き、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて声を合わせて歌っている。【技②】 ③歌詞の内容や旋律の重なり方の違いを生かした表現で歌っている。【技③】 ④互いの楽器の音や旋律、リズムの重なりを聴き合いながら、パートの重ね方による全体の響きの変化を生かして演奏している。【技④】	①弦楽器の音色や旋律の重なり方の変化から感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。【鑑①】

5 研究の視点について

【視点2】主体的・対話的で深い学びの視点からの工夫

○写真や映像の活用

音楽を表現する上で、音や音楽によって喚起される自己のイメージや感情をもつことが大切であると考え。そこで、歌詞の内容をより深く理解するために、海の写真や映像を提示し、歌詞に合う海の情景を捉えさせる。激しい波の様子や穏やかで静かな海の様子を見せることで、一人一人のイメージがより膨らみ、自分の表現したい思いがより明確になると考える。また、写真や映像を見て感じ取ったことを全体で共有し、まとめていくことで、表現を工夫する際の手掛かりになる。写真や映像を活用して、一人一人の思いに対する根拠を持たせることで、表現したいという意欲が高まり、主体的な学びにつながると考える。

○掲示物の活用

既習の学習を振り返り、一人一人が見通しを持って学習に取り組めるように、第一次の「小さな約束」で学習するリコーダーの音の合わせ方について視点をまとめたものを掲示しておく。「小さな約束」では、前半はぴったりと音が一つに集まる美しさを、そして後半は二つのパートが重なる美しさを感じ取らせるため、自分の音だけではなく友達の音を聴いて合わせることも重要である。そのため、掲示物を見ることで、リコーダーで学習したことを生かして、歌でも同じように重なり方を意識して表現することの大切さに気付くことができると考える。既習の学習と結び付けて考えさせ、本時の課題を明確にすることで、主体的な学びができるようにしたい。

○一人一人の思いを伝えやすくするグループ活動（本時においては活動4の場面）

主体的に自分の思いをもち、表現するために、少人数のグループ活動を取り入れる。その際に、ただグループを組むのではなく、表現したい部分や思いが似ている児童でグループを組ませることで、自分たちの思いを伝え合いやすく、より表現の幅が広がるのではないかと考える。また、強弱記号を一から考えさせるのではなく、楽譜にある記号はそのままにさらに強弱記号を加えたり、作曲者がその旋律につけた強弱を意味付けしたりすることで、作詞者や作曲者の思いにも迫ることができると考える。少人数の話し合いの場を設定し、話し合いの課題を明確にすることで、対話的な学びにつなげたい。

○拡大譜やホワイトボードの活用（本時においては活動4の場面）

曲の特徴にふさわしい表現を工夫するためには、自分たちの思いや意図を言葉で伝え合ったり、実際に歌ったり演奏したりすることを繰り返しながら学習していくことが大切だと考える。そのために、拡大譜やホワイトボードを用いて強弱の強いところはピンクの付箋、弱いところは青い付箋と決めて、強弱の変化の工夫をしやすくすることで、視覚からも強弱の変化が捉えやすくなるかと考える。また、速度や旋律の入り方などを書き込むことで、児童が表現する際に役立つのではないかと考える。さらに、グループで工夫したことを全体で共有する際には、ホワイトボードを見ながら歌い、聴くことで、工夫したことをより捉えやすくなり、聴く視点として活用できると考える。一人一人の思いを可視化することで、自分の考えを振り返りながら学習することができ、学びの深まりを実感させたい。

○振り返りの工夫（本時においては活動2、活動5の場面）

児童が自分たちの表現したものを振り返るために、録音機器を活用する。演奏したものを録音して聴くことで、演奏を客観的に捉えることができ、自分たちの思いを表現するためにはどのようにすればよいのか、演奏のよさや課題に気付くことができると考える。また、グループで工夫したことを発表する際には、拡大投影機を使用し、工夫した点が書かれたホワイトボードをテレビに映すことで、全体で見ながら歌うことができる。工夫した歌い方を全体で試し、録音して聴くことで、友達が工夫した内容のよさや違いを感じることができ、より高め合うことができると考える。本時の学習のできるようになったことを確かめ、新たな課題をもたせることで、次時へつなげていきたい。

6 題材の指導計画及び評価計画（10時間扱い）

次	時	○学習内容・主な学習活動	◆評価規準
第一次	ねらい リコーダーの音が重なり合うひびきを感じながら演奏する。 教材名 「小さな約束」		
	第1時	<p>○イ短調の響きを感じ取って、主な旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短調の雰囲気を感じ取り、短調の音階について知る。 ・ハ長調の音階との違いに気を付けながら、階名唱する。 ・主な旋律をリコーダーで演奏する。 <p>○旋律の特徴を生かして、副次的な旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半は斉奏、後半は合奏になっていることを確認する。 ・副次的な旋律をリコーダーで演奏する。 	<p>◆イ短調の楽譜を見て演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 【関①】</p>
第二次	第2時	<p>○短調の響きを感じ取りながら二部合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つのパートに分かれて、演奏する。 ・演奏したものを録音し、自分たちの演奏を振り返る。 ・旋律の特徴が生きているか確認し、表現を工夫する。 ・演奏するグループと聴くグループに分かれて互いに演奏し、聴き合う。 ・全体で演奏したものを録音し、自分たちの演奏を振り返る。 	<p>◆互いの楽器の音や音の重なりを聴き取り、全体の響きが変化していく面白さを感じ取りながらパートの重ね方を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。 【創②】</p> <p>◆イ短調の響きを感じ取り、互いの音を聴き合いながら、自分の音を調和させて演奏している。 【技①】</p>
	第3時	<p>○曲の感じをつかみ、主な旋律を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海」という言葉や歌詞から思い浮かぶことをワークシートに記入する。 ・海の写真や映像を見て、イメージを膨らませる。 ・範唱を聴いたり、楽譜を見たりして、アは斉唱であること、イとウは二部合唱であることなど、音楽の構造を知る。 ・フレーズを意識して主な旋律を歌う。 <p>○旋律の重なり方の違いを感じ取って、副次的な旋律を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イの旋律について、三度の音の重なりるときと教科書のように追いかけるような重なりるときとの感じ方を比較する。 ・重なり方の違いに気を付けて、副次的な旋律を歌う。 	<p>◆旋律の重なり合う響きのよさを生かして歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 【関②】</p>

第4時	<p>○旋律の重なり方を確認し、二部合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア、イ、ウの重なり方を確認し、全体で二部合唱する。 <p>○アの部分の歌い方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や音の動きから、アの部分を全体で工夫する。 ・イとウの中から、自分の気に入ったところ、より表現を工夫したいところを見つける。 	<p>◆旋律の重なり方の違いに気付き、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて声を合わせて歌っている。</p> <p style="text-align: right;">【技②】</p>
第5時 (本時)	<p>○二部合唱したものを録音する。</p> <p>○旋律の重なり方や歌詞の違いを生かし、自分たちの思いが伝わるようにイとウの表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いが近い者同士でグループを組み、強弱や歌い方の工夫をする。 <p>○グループで工夫したことを発表し、感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の重なり方や歌詞の違いによって表現の仕方が異なることに気付く。 	<p>◆互いの声や旋律の重なりを聴き取り、旋律の重なり方や歌詞の違いを生かした表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">【創①】</p>
第6時	<p>○前時にグループで工夫したことを全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループで工夫したことを持ちより、クラスでの工夫としてまとめていく。 <p>○旋律の重なり方や歌詞の違いを生かし、主旋律と副次的な旋律のバランスを考えて二部合唱する。</p> <p>○二部合唱したものを録音し、振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが工夫したことが表現できているか振り返り、学習のまとめをする。 	<p>◆歌詞の内容や旋律の重なり方の違いを生かした表現で歌っている。</p> <p style="text-align: right;">【技③】</p>
第三次	<p>ねらい いろいろな楽器の音が重なり合うひびきを味わいながら聴く。</p> <p>教材名 「アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章」</p>	
第7時	<p>○弦楽器の音色や響きを感じ取って「アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器の種類や楽器の大きさ、音の出し方について知る。 ・弦楽器の音色や響きに気を付けて聴く。 <p>○旋律の重なり方に気を付けて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつでもあの海は」の学習を振り返り、いろいろな旋律の重なり方があることに気付く。 ・音楽に合わせてスカーフを動かし、全員で同じ旋律を演奏しているところ、重なり方が変わったところを聴き取る。 ・感じたことを全体で共有する。 	<p>◆弦楽器の音色や旋律の重なり方に興味・関心をもち、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関③】</p> <p>◆弦楽器の音色や旋律の重なり方の変化から感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p> <p style="text-align: right;">【鑑①】</p>

第 四 次	ねらい いろいろな楽器の音が重なり合うひびきを楽しみながら演奏する。 教材名 「リボンのおどり」(ラ バンバ)		
	第 8 時	<p>○明るくリズムカルな踊りの雰囲気を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CDの範奏を聴いたり、DVDの映像を見たりして楽曲の感じをつかむ。 <p>○各パートの旋律の特徴をつかんで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五つの旋律パートのリズム打ちと階名唱をして、リコーダーで演奏する。 ・二つの打楽器パートのリズム打ちをする。 <p>○グループで演奏する楽器を決めて練習する。</p>	◆いろいろな音が重なり合う響きやリズムの面白さに興味・関心をもち、演奏したり聴いたりする学習に主体的に取り組もうとしている。 【関③】
	第 9 時	<p>○重なり合う響きの変化の面白さを生かして、表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で合奏し、全体の響きを感じ取る。 ・グループごとにいろいろな楽器の重ね方を試す。 ・ワークシートを活用して、繰り返しの回数や楽器の重ね方、強弱、速さなどを工夫する。 	◆互いの楽器の音や音の重なりを聴き取り、全体の響きが変化していく面白さを感じ取りながらパートの重ね方を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。 【創②】
第 10 時	<p>○グループで工夫した「リボンのおどり」を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに発表して互いに聴き合う。 ・音色や音の重なり、パートの重ね方などに着目し、それぞれのグループのよいところに気付いて聴く。 ・それぞれのグループの工夫を全員で演奏し、工夫したことを共有し、学習のまとめをする。 	◆互いの楽器の音や旋律、リズムの重なりを聴き合いながら、パートの重ね方による全体の響きの変化を生かして演奏している。 【技④】	

7 本時の学習 (5/10)

(1) 目標

旋律の重なり方や歌詞の違いを生かして、曲の特徴にふさわしい表現を工夫して歌うことができる。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準〈評価方法〉
<p>1 「ハローハロー」を歌う。</p> <p>2 「いつでもあの海は」を歌い、録音する。 ・録音したものを聴いて、課題を見つける。 【予想される児童の反応】 ・アの強弱はついていない。 ・イとウは盛り上がりがない。 ・言葉の発音に気を付けたい。 ・友達の声聴いて、声を合わせて歌いたい。</p> <p>3 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○教師のかかわり ◆評価規準〈評価方法〉</p> <p>○明るい雰囲気を始められるように声をかける。</p> <p>○前時までの活動を振り返り、歌詞を大切に、互いの声を聴いて歌うように助言する。</p> <p>○録音したものを聴かせ、アの部分の工夫が表現できているか確認し、課題を見つけさせる。</p> <p>○本時では、旋律の重なり方や歌詞の違いを生かして、イとウについて自分たちの思いが伝わるようにグループごとに歌い方を工夫することを伝える。</p>
<p>旋律の重なり方や歌詞を意識して、イとウの歌い方を工夫しよう。</p>	
<p>4 グループに分かれ、歌詞の内容や旋律の動きや重なりを考えて、イとウの強弱や歌い方の工夫をする。</p> <p>・ホワイトボードにピンク (mf、f、<) と青 (mp、p、>) の付箋を貼ったり、マジックで書き込んだりして、歌い方を工夫する。</p> <p>【予想される児童の反応】</p> <p>1番イ：「波がはげしい」から、上のパートだけでなく、下のパートも下から盛り上がるようにクレッシェンドで歌おう。</p> <p>1番イ：追いかけてっこしているから、始めをしっかりと歌おう。</p> <p>2番イ：「ささやくように」のところは弱く優しく歌おう。</p> <p>1番ウ：「おおぞらに」のところは、声が大きく広がるようにのびのびと声を響かせて歌おう。</p> <p>1番ウ：mpがあるから、「とおくひびくよ」のところは、最後デクレッシェンドして歌おう。</p>	<p>○拡大譜でア・イ・ウの重なり方の違いを確認し、歌詞の内容や旋律の動き、重なり方の違いが生きるように工夫するよう助言する。</p> <p>○ホワイトボードに付箋を貼ったり、マジックで書き込んだりして、強弱や歌い方を実際に歌って試しながら考えるように助言する。</p> <p>○1番と2番の歌詞の違いや旋律の重なり方の違いに気付けるように、イとウの1番、2番に分かれて4～6人のグループを組ませておく。</p> <p>○音程がうまく取れない児童に対しては、鍵盤楽器やリコーダーを使い、音程を確認しながら歌うように呼びかける。</p> <p>○一人一人の思いが表現に生かせるように、ワークシートを見ながら話し合うように助言する。</p> <p>○自分の思いを伝えることが難しい児童には、ワークシートに記入した選んだ理由を見ながら話すように助言する。</p>

2番ウ：「かぜもひかるよ」のところは、キラキラした感じを出したいから、明るくはっきりと歌おう。

5 グループで工夫したことを発表し、感想を伝え合う。

- ・代表のグループの工夫した点を基にして、クラスの半数で実際に歌い、録音する。
- ・残りの半数の児童は聴き役となり、工夫したことやよさに着目して聴く。

【歌の取り上げ方】全6～7グループ中

- ① 1番イを工夫したグループ
- ② 2番イを工夫したグループ
- ③ 1番ウを工夫したグループ
- ④ 2番ウを工夫したグループ

【予想される児童の反応】

- ・イのかけ合いにクレッシェンドが使われていたので、激しい波の様子が伝わってきた。
- ・ウの最後はデクレッシェンドで消えていく感じがしたので、本当に遠くで聞こえるようだった。
- ・同じ旋律でも1番と2番では、歌詞の内容が違うから表現の仕方が変わった。
- ・歌詞の内容が強弱記号に合っていた。

6 次回の内容を知り、「バーイバーイ」を歌う。

○拡大投影機を使い、テレビにホワイトボードを映しながら、工夫した点を述べるように指導する。

○発表したグループの工夫をクラスの半数で歌わせ、それぞれのよさを感じられるようにする。

○聴き役を立てて、工夫したことのよさを見つけてさせる。

○聴き手の発言を元に、録音を聴いて全体で工夫したことのよさを共有する。

○イとウのそれぞれ1番、2番を工夫した4つのグループを取り上げることで、歌詞によって表現の工夫の違いが生まれることに気付かせる。

○前時に全体で工夫したアと比較することで、旋律の重なり方の違いを押さえる。

○次回は、グループごとで工夫したことをもとに、クラス全体で曲を仕上げていくことを伝える。

◆互いの声や旋律の重なりを聴き取り、旋律の重なり方の違いを生かした表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。 【創①】

<発言内容、行動観察>

「いつでもあの海は」 5年 組 番 氏名 ()

♪「海」と聞いて、どんなことを思い浮かべますか。

--

♪ 1 番の歌詞・ 2 番の歌詞を読んで感じたことを書きましょう。

1 番	2 番

♪ 楽譜を見たり、聴いたりして、重なり方の違いや感じたことを書きましょう。

ア () 旋律を歌う部分

--

イ 2つの旋律が () リズムで重なる部分

--

ウ 2つの旋律が () リズムで重なる部分

--

♪ イとウの中で、気に入ったところに○をつけましょう。選んだ理由も書きましょう。

1 番 イ 波が はげしく くだけるように ウ 大空に 海のうた 遠くひびくよ	2 番 イ 波が やさしく ささやくように ウ くり返す 海のうた 風もひかるよ
---	--

【理由】

--